

絶滅の危険度の評価区分

絶滅	我が国ではすでに絶滅したと考えられる種
野生絶滅	飼育・栽培下、あるいは自然分布域の明らかに外側で野生化した状態でのみ存続している種
絶滅危惧	
I 類	絶滅の危機に瀕している種 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、野生での存続が困難なもの
	I A 類 ごく近い将来における野生での絶滅の危険性が極めて高いもの
	I B 類 I A 類ほどではないが、近い将来における野生での絶滅の危険性が高いもの
II 類	絶滅の危険が増大している種 ・現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧 I 類」のカテゴリーに移行することが確実と考えられるもの
準絶滅危惧種	存続基盤が脆弱な種 ・現時点での絶滅危険度は小さいが、生息条件の変化によっては「絶滅危惧」として上位カテゴリーに移行する要素を有するもの
情報不足	評価するだけの情報が不足している種